



写真・市谷 健「今日もいいお天気だな」

## 五〇〇号によせて

鈴木清一はダスキンの創業者です。「燈々無尽」(七頁)を読まれた方からどんな人ですか、著書はありますかと、お年寄りから若い人まで幅広くお問い合わせをいただきます。共鳴させる言葉の強さに驚かされます。名刺の裏に、「喜びのタネをまこう」たとえ自分にとって損であろうとも 或いは苦しいことであろうとも自ら進んで

生き甲斐を求めるなら  
他人に対して

喜びのタネをまこう

そして喜びのタネから

美しい世の中にする

花を咲かせたい

と印刷して、出会う人ことに熱い思いを語り続けました。

創業者のこのような思いからダ

スキンが誕生し、また喜びのタネ

まき新聞も生まれました。昭和五

十五年に世を去りましたが、存命

ならば今年で満百歳。そして昭和

四十六年創刊の新聞は、おかげさ

まで五〇〇号を迎えることになり

ました。お客様とダスキンをお届けするシーダーさん(喜びのタネをまく人、の意味がこめられた当時のお客様係)の間で、共に語りあえるような話題を紹介したい。小さな喜びを共感しあうことで、すこしでも日々を心豊かに過ごせたら、そんな思いを込めてお届けしてきました。これからもそのころを継承し、発行を続けてまいります。

ありがとうございました。

株式会社ダスキン会長

伊東英幸

# 喜びのタネまき新聞

読む人の幸せを心に願って作る

no.500

一番下の僕をかわいがってくれた母。  
記憶の底に焼きついているあのシーンが、ふとした弾みに鮮やかによみがえります。

誰でもふるさとのことを思い出すと、いちばん先に浮かぶのは母のことだろう。僕が小学校に入学したころは、村はまだ土の道だった。子供も多かった。歳を行った今では遠い日々の話だが、僕は小学校一年に上がるときまで、母親のおっぱいを吸っていたのである。あるとき、いつものように小学校から帰ると、ランドセルをほっほり投げけるのももどかしく、一目散に母の胸元に飛び込んだ。

僕の頭の中にはすでに、白くてやわらかいお母さんのおっぱいが、くつきりとイメージされていた。

急いで母の和服のえりから見ると、薄灰色をした大きなゴーヤクが胸にべったりと貼られているではないか。

これは誰の作業だ！

母は、それまでどんなことに対して、僕には「NO！」を言ったことがなかった。そのときも、なにも言わずに微笑んでいるだけだった。

しかし、あのときの、妙なというか、不思議な母の顔を今でも忘れられない。

そのことがあってから、僕は学校から帰っても、おっぱいを吸うことなんか、すっかり忘れてしまったのである。

都会の僕の個展で出会った紳士がこの話を聞き、「実は僕も……」と述べた。昔は子だくさんだったので、末っ子は同じようなこともよくあったのだと知った。

絵と文 版画家 中野洋一

版画家、陶彫家。鹿児島生まれ。故郷の風物等をテーマに木版画や陶彫を制作。1995年には朝日新聞日曜版のカットを連載。オランダ国際版画ビエンナーレ展入選など国際的にも活躍。



## 美味しくくて、ほっぺたが落ちちやう 「あつあつ焼きリンゴ」

リンゴを丸ごと器にして、中にはソースであえたレーズンとリンゴの果肉を詰めて焼き上げます。へたの部分がフタになる、見た目も可愛い本格デザート！



お料理研究家 こいけりえ

### ◎作り方(2個分) ●リンゴの器をつくる

リンゴ(出来れば紅玉)2個はきれいに洗って、へたの付いている上の部分を横にまっすぐに切る。この部分はフタになるので、全体の4分の1くらいを目安に切る。リンゴの表面全体に楊枝で穴をあけておく。ナイフなどを使ってリンゴの中を大きくくり抜く。果肉をくり抜くときはリンゴの底に穴をあけないように気をつける。



器りき1cm位残すように底には穴を開けないように

### ●詰め物をつくる

くり抜いたリンゴの果肉はタネや芯を取り除き細かく切っておく。ボウルに小さめの卵1個分を溶いて、砂糖大さじ2、牛乳大さじ1、シナモンパウダー少々を入れてよく混ぜ合わせる。混ぜ合わせたソースの中に、ラム酒入りレーズン20粒と細かく切ったリンゴの果肉を加え、さらによく混ぜ合わせる。くり抜いたリンゴの中に、ソースで混ぜ合わせたリンゴの果肉をぎっしりと詰め、その上に切ったバター20gを全体にのせる。

### ●オーブンで焼く

耐熱容器にリンゴを入れて、切り取ったフタを上からかぶせる。



オーブンに入れるときはリンゴから汁が出るので少し高めの器に入れる

### ●仕上げ

焼きリンゴは大きめのカップに入れて仕上げに上から粉砂糖をふりかける。ホイップした生クリームを添えて完成です。バナナアイスでも美味しいです。食べるときは、リンゴのふたを取って生クリームを上のにせます。一個を二人で分けてもいいくらいの迫力！



できあがり♪

## おやつ時間

簡単、美味しい楽ラクレシピ



## みてもらおう！

見てうれし、見せてうれし、この写真。わたしの出番の1枚を送ってください。



「もお、大すき!」  
北海道釧路市 大内崇子



「今日はいっぱい遊んだね」  
千葉県富里市 八百代裕希



おめでどうのごあいさつ♪でした。  
青森県黒石市 坂本恵美子

家族や友だちにしか撮れないステキな笑顔、みんなに見てもらいたいわたし好みの1枚。もちろんかわいいペットも撮れたら送ってください。お待ちしております！(詳細は7ページ)



あらっ、社長さんからのラブレターだわ！  
と、心ときめかして、あなたが、読んで頂けるような、  
新聞をつくりたい。  
あなたが、イライラする時、かなしい時、この新聞を手  
にとって、お読み下されば、心ほのほの、とする、とい  
った、新聞をつくりたいと思います。

鈴木清一

「喜びのタネまき新聞」第1号冒頭より



1971年7月は私どもにとって記念すべき時  
でした。「喜びのタネまき新聞」が誕生。第1号は  
ダスキン創業者の鈴木清一のメッセージから始ま  
りました。以来、今号で500号を数えました。  
おかげさまで、途切れることなく、39年間と長  
きにわたって続けさせていただいております。この  
新聞も、その時代その時代によって、見た目の変  
化はありながらも、第1号でお伝えした姿勢をそ  
のまま保ち続けることができました。今まで読ん  
でくださっている方、支えてくださったお一人おひ  
とりに、心よりの感謝を申しあげます。  
495号で、あの人に伝えたい「ありがとう」の  
エピソードを募集しました。今回、500号と5  
01号で皆様からいただいた、たくさんの方の心温ま  
るお便りの中から、その一部をご紹介します。いた  
だき、記念特集号といたします。

孫  
宮崎県日向市 谷口洋子 71歳



23歳の初孫は大学の時、祖父母の我が  
家から通学。昨年、大阪で就職しました。  
「ごはんですよー」「ありがとう」。急がな  
いと電車に遅れるよー」「ありがとう」。私  
達は目覚まし時計の役目もしてきまし  
た。気をつけてねー」「ウン、行ってくるわ。  
ありがとう」。この子は「ありがとう」し  
か出てこないのかと思うほど、あつちにも  
こつちにもこの言葉をつける孫でした。

いよいよ出発の3月30日の前夜、コンコ  
ンとノックの音。孫が真面目な顔で入っ  
てきて、三つ指ついて「4年間、大変お世話  
になりました。ありがとうございました」  
と礼を言うのです。こらえていた嬉し涙が  
どーっと出ました。「じいさん、ばばさん  
こそお世話になりました。ありがとうよ」

手づくり弁当  
福井県ダスキン武生支店 梶山謹司 62歳



私の父は気が弱く、酒の力を借りない  
と何も言えない男でした。私は子供の頃  
からそんな父が嫌いでした。仕事は孤児  
院の給食係で、休日は朝から浴びるよう  
に酒を飲み、78歳で他界しました。

父の葬儀が終わる頃、見知らぬ男女数  
人が焼香してくれました。「あの…」と  
声をかけると「僕は孤児院の仲間です」  
施設で辛かったのは、遠足でお弁当を  
持つて行く時だったと話してくれました。

「私達のお弁当はパンとミルクに決まっ  
ていて、同級生は母親の手づくり弁当。葉  
しそうな友達から離れた場所ですべて、  
だから遠足が一番悲しい日でした。梶山  
のおじさんが来てくれてから、お弁当が  
変わりました。どこの母親にも負けない  
くらい、綺麗で美味しい手づくり弁当を  
持たせてくれました。その日から遠足を  
待ち遠しくなり、友達に自慢げに見せな  
がら、お弁当をいただきました。

あの時のお弁当の味を、20年経った今  
も忘れることはありません」  
聞いたとたん、知らなかった父の姿を  
知った喜びと、その人が父であったことへ  
の感謝が涙になり止まりませんでした。

お客様のこと  
千葉県ダスキン茂原 渡辺清江 70歳



私のお客様にひとり暮らしの女性がい  
て、この新聞を楽しみにしておられます。  
交換日はチャイムを聞いてもすぐ出て  
来られないからと、代金とお手紙と一緒  
にいつも一定の場所に置いて下さいます。  
晴れた日は台の上にチラシを敷き、雨  
の日は濡れないようにガードして出して

下さり、こまやかなお心遣いに頭が下が  
ります。たまにお会いしても、いつも変わ  
らない笑顔です。お世話をかけているの  
は私のほうなのだと思います。この方  
のように心豊かに歳を重ねたいものです。

タクシー  
秋田県大仙市 堀谷里織 37歳



2人の息子が3歳と赤ちゃんで、病院  
に行った時のことです。診察後、薬局へ行  
く途中、手を引いていた長男が病院前に  
駐車中のタクシーに乗りたいたと駄々をこ  
ね始めました。そこから離れず、抱っこし  
ていた子も空腹で泣き始め、私は人目も  
憚らず力ずくで子の手を引き、大声で  
怒鳴りました。すると1人の女性が、  
「お兄ちゃん、お母さんを困らせちゃダメ  
よ。アイスでも買ってもらいなさいね」  
息子の手に握らせた200円。ぱつと心に  
余裕を戻してくれた女性の優しさでした。  
頂いたお金で1メーターだけ乗車しました。

同級生の思い出  
熊本県八代市 田中香純 31歳



小学3年のある日、私は高熱で1週間  
学校を休みました。病欠が長引くにつれ、  
勉強の進み具合が気になり不安になりま  
したが、熱は下がらず焦っていました。  
「こんばんは」のりこちゃんが少し遠い  
のにわざわざ1週間分のプリントを届け  
てくれて、温かい気持ちになりました。  
治って登校した日、先生から、彼女が  
進んで届けてくれた事を聞きました。  
暫くして今度はのりこちゃんが風邪を  
ひき、「誰か届けてくれる？」と聞かれて  
迷わずさつと手を挙げました。思いやる  
気持ちを教わった少女時代のことです。

その朝のパン屋さん  
兵庫県伊丹市 勝山直人 76歳



阪神淡路大震災から15年。震災の朝、  
駅前のパン屋さんに行ったがシャッターは  
閉じたままだった。昨日のパンでもあれば  
と待つ。後ろに4、5人がすぐ並んだ。  
しばらくすると、店主夫妻が家用車  
で駆けつけ、シャッターを半分だけ開け、  
「お客さん、家族は何人ですか?」「妻と  
娘、孫達で6人です」「ハイ、ゆで卵6個。  
一人1個ずつですが、これを食べて元氣を  
出して頑張ってください。日頃の感謝のお  
しるしです」と袋に入れてくれた。

娘と孫達は被災前日に来て、宝塚歌劇  
を見て泊まっていた。その朝は寒い日だっ  
たが、ひと様の温かい人情にふれ、帰り道、  
うれしくて涙がこみあげた。パン屋さん  
の前を通るたびに思い出す朝である。



生還

兵庫県姫路市 高井英子 51歳



主人が5年前単身赴任先の中国で倒れ、駆けつけた私に医師は絶対安静を告げた。くも膜下出血だったが、手術が難しい位置とのことで、半月後には子供達も飛んできた。ほかの臓器にも炎症が起き、「これ以上滞在しても何も出来ない」と医師に言われ、泣いていた時、中国の付添婦さんは私の背中をさすってくれ、学生さん達は一生懸命に通訳をしてくれた。

そして、主人のためにたくさんの人達が奔走してくれて、東京の病院へ、まさに命がけの搬送を行った。  
多くの人の助けと祈りのおかげで、東京で手術は成功。倒れて3カ月で我が家へ帰ることができた。抱えきれない不安をおさえて、留守を守り、頑張ってくれた子供達に感謝。あなた達がいてくれたから、お母さんは頑張れたと思います。  
その1年後、リハビリとの闘いもありましたが、主人は会社へ復帰できるまでになりました。なにより生還に感謝です。

いろいろな楽しみを教えてください。

じいちゃん、ばあちゃんは夏のあつさで疲れたといっています。体をだいたい無理をしないでください。これからは、さいさい来てしまっけど、よろしくね。

勇気を出して

鳥取市 中居純子 62歳



一昨年、主人を見おろしてからは、悲しくて、いつも泣いてばかりいました。そんな私に、10歳の誕生日をむかえたばかりの孫の実紅が手紙をくれました。『泣いていると、おじいちゃんが安心しないから笑顔でいよう。みんなに愛されているから大丈夫。勇気を出して楽しんでいこう。』思わず孫を抱きしめました。悲劇のヒロインのつもりで一人でふさぎこみ心配をかけたのですが、周りの皆に支えられていることに気がきました。

それからは、少しずつ立ち直り、あれから2度目の秋が巡ってきました。みくちゃん、ありがとう。これからは、おじいちゃんの分まで幸せになるね！

祖母のお土産

秋田県仙北市 田口恵子 30歳



黄色のお花がいっぱい刺繍された手さげカバン。私を使うようになったのは、ここ1年くらい。それまでは、押入れの中に15年以上も眠っていました。

今は外出できませんが、祖母は旅行が大好き。旅先で特産のバッグやお財布などを買ってきてくれたのですが、その頃の私は流行ばかり気になる子供でした。30歳になった今、やっとその良さに気付いて、大のお気に入りになりました！どんなブランドのバッグよりも輝いている、私だけの素敵なカバンです。

アリガト



ことしの春から弟のれおとが、ほいくえんへ通い、お母さんはかんごしさんとして、働きはじめました。きよねんの夏休みは、みんなで一緒にいられたけど、ことしは近くのじいちゃん、ばあちゃんの家ですぐすことになりました。

じいちゃんはい物につれて行ってくれ、やさいを一緒にとったり、花に水をやったり、メダカにえさをあげたりと、いき物のたいせつさを教えてくれました。ばあちゃんは、あみ物や俳句を教えてください、図書館へつれていってくれたりと、

ケータイカメラ

秋田県中央ドライダスキン部 鎌田るり子 46歳



夏の湯沢市三大祭の『大名行列』。道路わきに座っていると、「隣に座らせてもらえるかしら」と年配の女性が来られ「孫が行列に参加して嫁が送ってくれた」と楽しそうに話していました。

行列が来ると「ケータイカメラの使い方が分からないの。撮ってくれる？」と言うのです。お孫さんはすでに通り過ぎ、ずっと先。私は慌てて走って、なんとかパシャリ。行列も通りすぎた頃、

「親切にしてくれてありがとう。幸せな気持ちになったわ。幸せってどこにあるかわからないわね」思いがけない素敵な言葉に私の方が幸せになりました。

マッサージ屋さん

岡山県赤磐市 杉本智恵子 67歳



「お願いします」毎日、お風呂から上がると、主人の前に座ります。  
「今日は腫れているな」私は2年前から関節リウマチで、主人は右足首、両手首を一生懸命にマッサージしてくれます。  
「女の人にさわられていいね」「老人ですみ

ダスキン創業の決意

ダスキンは「脱皮」から始まりました。私は提携に破れ、失意のどん底にありましたが、多くの人びとの善意に支えられてこれからは喜びのタネをまこう、世の中の人に喜ばれる働きをしよう、と創業を決意しました。  
経営理念の一節には、こう記しました。  
自分に対しては  
損と得とあらば  
損の道をゆくこと  
他人に対しては  
喜びのタネまきをすること

あなたのお便りや写真をお寄せください

みなさまからお寄せいただいたお話をもとに新聞をつくってまいります。どうぞ、あなたが体験した嬉しかったこと、誰かに聞いてもらいたいことなど、身近な話題をお寄せください。

●投稿には、名前、年齢、職業、住所、電話番号、現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。紙面やホームページでご紹介させていただいた原稿や写真にはお礼をさせていただきます。

●送り先  
〒163-0223  
東京都新宿区西新宿2丁目6番1号  
新宿住友ビル23階(私書箱47号)  
ダスキン「喜びのタネまき新聞」編集室  
電話 03(5909)6703  
e-mail: koho4@mail.duskin.co.jp

無料 おそうじ相談 実施中!  
ダスキンコールセンター  
平日の9:00~17:00  
0120-100-100

●2ページの中野洋一さんのアトリエ  
〒896-1301 鹿児島県薩摩川内市鹿島町蘭牟田2131-203

ニココリ



88才の母へ  
宮城県大崎市 辻本洋子 55歳

私は東京下町育ち。両親の意見に耳をかさず、宮城県に嫁いで早29年。滅多に帰れず親不孝ばかり。母が危ない数年前ですら帰京しませんでした。幸い快復した母が、自責に苦しむ私に言いました。  
「親孝行とか恩返しとか考えなくていいんだよ。親はそんなこと望んじやない。その思いのすべてを、今度は自分の子供に注いでおくれ。それが最高の親孝行なんだよ」ただただ母の愛の大きさと深さに涙が止まりませんでした。  
感謝！すばらしいお便りを944通もいただきました！  
日常のちょっとした出来ごとや長年積み重なった感謝の思いなど、心温まる多くのエピソードをいただきました。次号も引き続き掲載します。どうぞお楽しみに。  
\*ダスキンのお客様の場合は、店名を記載しております。



**ダスキンは「もったいない」を「タカラ」と考えます。**

『喜びのタネまき新聞』の創刊と同じ1971年7月に、  
ダスキンが始めたエコがあります。  
人気の家庭用ぞうきん「ホームダスキン」として使えなくなったものを、  
産業用ぞうきん「ウエス」にリサイクルするという取り組みです。  
リサイクルという概念がなかった当時、  
このアイデアは非常に画期的とされました。  
私たちは今も、使えなくなったものを  
「<sup>ひん</sup>タカラ品」と呼んで大切に再利用しています。



詳しくはwebで  
「ダスキンのエコ」  
を検索してネ。



工場などで使われる  
**ウエス**に生まれ  
変わるのよ

(ダスキン環境シンボルマーク)



**お楽しみクイズ**

ふきそうじに使う布を  
何と言うでしょう？



正解者の中から30名様に  
「キッチンきれいセット」を  
**プレゼント!**



下記の要領でご応募ください。

- ◆ハガキに
    - ①クイズの答え②郵便番号③住所④氏名⑤年齢⑥性別
    - ⑦電話番号⑧現在ご利用のダスキンの店名をご記入の上、  
下記あて先までお送りください。
  - ◆締め切り 平成23年2月18日(金)当日消印有効
  - ◆ダスキン関係者の応募はご遠慮ください。
  - ◆当選者の発表は、プレゼントの発送をもってかえさせていただきます。  
(平成23年3月中旬お届け予定)
  - ◆あて先 〒163-0223  
東京都新宿区西新宿2丁目6番1号  
新宿住友ビル23階(私書箱47号)  
(株)ダスキン「喜びのタネまき新聞」クイズプレゼント係
  - ◆応募に関してのお問い合わせ TEL:03-5909-6703
- ※抽選結果に関するお問い合わせはお受けできません。予めご了承ください。

今回ご応募いただいた個人情報については、(株)ダスキンの範囲内でのみ利用させていただきます。プレゼントの抽選・発送の目的以外には使用いたしません。個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、(株)ダスキン「喜びのタネまき新聞」クイズプレゼント係 TEL:03-5909-6703 までご連絡ください。

第498号のクイズの答えは「おおうじ」でした。

**ダスキンのお客様係募集中!!**

詳しくはwebで

お客様係

検索

※お仕事内容や募集要項をご覧ください。



携帯からも  
アクセス

●この新聞をお届けしているのは

株式会社 **ダスキン**

発行：広報・広告部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

編集：「喜びのタネまき新聞」編集室

〒163-0223

東京都新宿区西新宿2丁目6番1号 新宿住友ビル23階(私書箱47号)

TEL:03-5909-6703 FAX:03-5909-6771

【お客さまの個人情報のお取り扱いについて】

お客さまの個人情報は商品のお届けや回収、サービスの提供に利用させていただきます。また、後日商品やサービスのご案内をさせていただく場合があります。なお、お預かりした個人情報はダスキングループ企業と加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。

個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記ダスキンコールセンターまでご連絡ください。

■ダスキンコールセンター

**0120-100100** www.duskin.jp